



いちかわ歴史散歩

中山から奉免町・柏井町のあたりまでの略地図と、日蓮ゆかりの場所を紹介している「市川の散歩道 日蓮伝説の跡を訪ねて」。

講演会と合わせて、日蓮ゆかりの地を歩いてみませんか？

市川市文学プラザ（生涯学習センター3階）、文化振興担当（市役所本庁舎3階）で、無料配布しています。



市川の日蓮伝説

日蓮が市川を訪れたのは文応元年(1260)のことといわれています。当時打ち続く天変地異や悪疫の流行を憂いた日蓮は、これは邪宗がはびこっているからで、今に他国の侵略をまねく危険があると警告した「立正安国論」を著しました。そして鎌倉幕府執権北条時頼に法華経による救国を進言しましたが入れられず、かえって念仏宗徒に庵を焼討され、日蓮は若宮の富木常忍の館に逃れてきました。

富木常忍は府中(国府台)に置かれたと思われる守護所に通り、守護千葉介頼胤の執事として働いていました。伝説では、日蓮と常忍の出会いについて、二子ノ浦から鎌倉に向かうおり、同船した二人が船中で問答を交わし、常忍はついに日蓮に帰依したといわれています。

鎌倉から逃れてきた日蓮は、若宮の鎮守若宮八幡の社殿で百日間にわたる百座説法をしました。この説法を聞いて日蓮に帰依する者が多かったので、常忍は館

の中に法華堂を建て日蓮に献じました。日蓮は釈迦如来の像を彫って安置し、妙連山法華経寺と号しました。これが法華経寺の起りこりで現在の奥の院の地です。

また、日蓮の説法にまつわる次のような話も伝えられています。

日蓮の百座説法を一日も欠かさず聞きに来ていた女性がおりました。日蓮は怪しんで花瓶の水を頭から注いだところ、たちまち姿が竜に変わり日蓮の手許にあった経文八巻を奪って逃げました。村の者たちが後をつけると七巻の経文が点々と落ちていました。さらに、台地の外れにある大池の回りの桜の大木に経文一卷が掛かっていたので、これはこの池に住む姥神だということになりました。そこに妙正寺が建てられ、七巻の経文を落とした所を七経塚と呼び、石碑が建てられ、現在は妙正寺で見ることができます。

『市川の散歩道 日蓮伝説の跡を訪ねて』より

一部表現を変え引用

市川市映像文化センター（市史編さん事業担当）

〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-4 生涯学習センター2階

TEL 047-320-3334 FAX 047-320-3356 <http://www.city.ichikawa.lg.jp/shishihensan>